

おお大勝利

平成 20 年度山東サッカー部報第 8 号 (6 月 10 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

日大に敗れる 東北大会を有終の美に

6月6日(金)、7日(土)、8日(日)と県総体第二ラウンドが行われました。6日の山東の相手は宿敵の鶴岡工業。2回戦で優勝候補筆頭の山形中央を破った勢いのあるチーム。山形中央が敗れた際、優勝候補筆頭が敗れたにもかかわらず、山東の選手の中から「歓声」は上がりませんでした。すなわち、それだけ鶴岡工業もやっかいな、決して油断のできない相手と選手が認めているということ。飯森山の最高のピッチでキックオフ。前半は一進一退で、若干山東ペースで試合は進むも得点なし。後半になって山東は早々にペースをつかみ、CKのこぼれ球に早い反応を示した2年MF鬼嶋のヘディングで待望の先制。そのまま攻めきりたかったが、そこは鶴岡も実力校。しっかりと体を張った攻めで山東を苦しめ、決定的シーンを作り出す。が、勝利の女神は山東に微笑み、結局無失点で試合終了。

7日の相手は、2戦連続で「格下」相手に延長までもつれた日大。これまでの今期の山東との対戦成績は一勝一敗。いよいよ決戦。延長までもつれたことは、日大の調子が悪いのではなく、逆境になっても必ず勝つ強さの現れであるので、気を引き締めていこうと意思統一して臨む。日大は得意のシンプル(すぎる!)攻めで山東ゴールに迫る。山東のDFラインはしっかり撥ね返すものの、オフenseにおいて安定したポジション(ボール保持)ができないため、繰り返し大きな攻めを許す。日大はハードなディフェンスで山東のアタッカー陣を苦しめ、山東の時間を作らせない。「日大サッカー」の流れで試合は進むも、両チーム無得点で延長へ。延長前半、山東DFのちょっとした緩みを見逃さなかった日大FWのドリブルシュートで、先制を許す。苦しくなった山東は後半から3トップで勝負をかける。しかしチャンスは作るもゴールは遠く、悔しい悔しい敗戦。一昨年の県総体決勝で山東の全国行きを阻んだのも日大。「**日大サッカー**」に屈する口惜しさは一入。しかし3年生を中心に切り替えは早く、明日の東北大会行きを賭けた三決に期待を持たせた。

三決の相手は東海。日大とは対照的にボール・ポジションを重視する洗練されたサッカーをしてくるチーム。今度は山東が、激しいディフェンスで相手のサッカーを封じることによってペースをつかむ番。東海は前半、きれいな崩しからGKとの1対1を作り出し、山東GKがたまたら相手選手を引っ掛けPK。しかし枠を外し、事なきを得る。その後、山東はアウトサイドの攻撃からたびたびチャンスを作り出す。東海は中盤で細かいパスワークによるポジションをしようと選手がインサイドに寄り気味で、アウトサイドにスペースを作りすぎてしまい、山東のアウトサイドからの攻撃を許す(これは昨年度の

山東が鶴岡東に敗れたパターンです)。そして**相手ゴール前で体を入れて相手ボールを奪った平の素晴らしいフレイ**に、今度は東海がたまたまファウルを犯し、山東 PK 獲得。キッカーは PK 職人黒田。難なく決め、先制。後半は東海、山東とも決定的チャンスを作る。終盤、山東は相手攻撃に防戦一方となり、ただ蹴って攻撃をかわすだけに。それでもディフェンスに集中していた山東に好機が訪れ、相手 DF が後退するのを見透かした平が、敵をかわさないままミドルシュート。このファインゴールが決まり、結局山東の 2-0 の勝利。インターハイ出場という最高の結果は得られませんでした。東北大会出場を勝ち取った、うれしい勝利。最後に勝って笑顔のまま、山形への帰途につきました。

その日、山形で、選手・保護者別々に「お疲れ様会」を行い、労をねぎらいました。6月27日(金)~30日(月)にわたって行われる東北大会では、3年生の引退が一日でも遅れるよう、そして悔いのない戦いができるよう、頑張ってきます。県総体での応援ありがとうございました。東北大会でもよろしくお願いします。